



一宮町長
馬淵 昌也

最近、日本社会における男女差別が議論的となっております。私は、男女差別を含めて、すべての差別が許されないものであると思います。中でも、男女差別は、日常の暮らしの中にも深く溶け込んだ事柄ですから、解消するのがなかなか難しい案件です。わたくし個人は、自らの言動にそうしたことが全くないよう、常に意識的に取り組んでいます。

一宮町では、現在「男女共同参画計画」を作っているところで、作成委員をお2人公募中です。これは、町の施策として、男女差別を、社会の各方面から除去してゆくための実践指針です。県内では遅い方であり、その点は反省しなくてはならないと思います。翻って、一宮町の現状を見てみると、少なくとも政治や行政の関係では、統計的にはそれなりの進捗を示しているように思われます。たとえば、町議会議員の中には、現在、女性議員は定数14人中おひとりですが、直近までは、16人の定数に対し、3人の女性議員が

おられました。また、町役場では、現在、13人の課長のうち、4人が女性です。国は目標として、2020年までに各種社会組織の女性管理職の比率を30パーセント以上にすることをめざしていました。町役場は一足早く、この目標をクリアした形です。念のため申し上げておきますと、女性の課長が増えても、課長会議が長くなっているということはありません。町役場では、年齢層によって男女比率が異なりますので、今後数年間は、女性管理職が減る見込みです。しかしその後は、ぐっと増えることが予想されます。

今回、全国的に巻き起こった男女差別をめぐる議論は、私たちが、改めて身近な問題として男女差別の問題を突き付けられた点で、大きな教訓的意味がありました。現在作成中の男女共同参画計画を契機として、一宮町を完全に男女差別のない町とすることを、一緒に目指してゆきたいと思っています。